

大神  
野元正

満月の夜  
森林を出て 草原をゆく  
尽きると そこは断崖  
眼下に 町の灯りが 瞬き 煌めき  
人が まだ眠らない  
瞬き 犇めいている

そのずっと向こうは  
月光が渡る海  
遠くに島が 見える  
かつて 海辺までが  
われらの縄張りだった  
あの島から 海を泳いでやってきた  
おまえの父さんは  
猪一族を 守るため 闘い  
大神に 粛正された  
大神の遠吠えが  
今も 耳に残る

人は彼らを狼と 呼び  
われらは大神と呼んだ  
大神は海辺まで出張ってきて  
われらを間引いた  
しかし  
根絶やしには しなかった  
子孫へ生命を 継ぐことを  
許した

人は  
大神を 根絶やしにし  
野生の殲滅を 楽しんだ  
人以外の  
生命を食し 生命を 継ぐものは  
その悪魔の所業を蔑んだ  
だが…：どうすることも

出来ない

大神は

鍬や鉛玉や巧妙な罾や毒餌に  
斃れた。

殲滅はしつこく繰り返され  
ついに 大神は絶えた

われらは 密かに

幻の大神の存在を 信じ

人は あらゆる書物で

狼の絶滅を 誇る

われらの子孫は

大神がいなくなった分

繁栄した

それもつかの間

人はわれらの縄張りを

侵し始める

瞬く間に占領

大樹を伐採 森林を狭める

われらを森林の奥に

追いやり

自然に刃を向ける

天変地異

異変は絶え間なく続き

われらの食べ物尽きる

やがてわれらは

野生でいられなくなった

里におり

食べ物を漁る

人の怒りを持った

今、殲滅を恐れて

息を潜める

人に神神の鉄槌が下されんことを

祈る

それは

夢幻ではなく この疫病の猛威だろうか